

評価委員評価票

研究課題名：B3 津波の予測手法の高度化に関する研究

評価委員

委員長： 小泉 尚嗣

委員： 木村 富士男、関口 渉次、泊 次郎、渡辺 秀文

記入年月日：平成 28 年 10 月 21 日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 新規課題に移行 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

津波予報の迅速化と高精度化は、巨大津波から人命を守るためにも極めて重要度が高い。東日本大震災以降、沖合での津波観測網の整備が進んでいるが、これらの観測データから津波成分だけを取り出す手法を開発し、気象庁の予報業務に取り入れられたことは良いことである。

2011 年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）において指摘された津波予報の課題の改善につとめ、新たな観測データ（海域の津波観測データ）を活用した手法を開発している点は評価出来る。また、波源推定に基づかない予測手法の開発や遠地津波の予測のための数理モデル開発もすばらしい。

稠密な津波観測網が整備された北日本太平洋域では、観測された津波からその後の津波の広がり予測する手法が適用可能と考えられるので、この手法の開発も精力的に進めてほしい。他方、海域の津波観測点については、海域によって観測点に粗密があるのが実情で、南海トラフ大地震が引き起こすであろう津波に対しても観測点が十分であるとはいえない。津波に対して国民を等しく守るために、研究成果に基づいて、気象研究所として最適な観測点配置について資料を提供していくようなこともあって良いと考えられる。また、波源推定に基づく津波予測は、沖合の津波観測網のデータに基づく予測と、GNSS 測地データに基づく予測の 2 通りあるが、GNSS 測地データに基づく予測は、津波観測網の無いところでも適用可能なので、この手法についても実用化を目指して研究を続けてほしい。

研究成果を業務に活用することを意識し、本庁の業務担当者とも連携しながら、多様な事例に適用できる完成度の高い研究をめざしていることは高く評価できる。B1、B2 課題とともに、国民が研究の成果とその社会実装を渴望しており、一層の努力をお願いしたい。